

場
長
就
任
の
ご
あ
い
さ
つ

場長
あさい とよき
浅井 豊樹

我が国の製造業は、消費税率の引上げに伴う駆け込み需要の反動により回復の動きが弱いものの、全体としては設備投資の増加や、企業収益の改善など、緩やかな回復基調が続いています。

本県でも、こうした景気回復の動きを確かな成長へとつないでいくため、新技術や新製品の開発による新規需要の創出や国際展開の拡大、次世代産業の創造、産業人材の育成確保などの施策を強力に展開しています。

工業試験場では、こうした本県の産業振興を技術面から支援するために、次世代産業として成長が期待される、炭素繊維、機能性食品、再生可能エネルギーなどに取り組み、企業の技術開発・商品開発の新しい方向性を提示しています。

さらに本年度の目玉として、試作品の製造時間を大幅に短縮する3Dプリンタ（樹脂・石膏タイプ、金属タイプ）を導入し、昨年度に導入した三次元デジタルと連動させた、設計から試作、製造までの一貫したものづくり支援を図ることとしています。

このように書いてきますと、工業試験場は難しい研究ばかりに取り組んでいるように思われがちですが、そうではありません。2年に一度、約400の企業を訪問し、企業の技術的課題や工業試験場に期待することなどを調査して、企業の要望に沿った研究開発や新規導入設備の選定に役立てています。

「研究」についても、技術シーズを探索する研究のほか、製品化・事業化を目指す産学官連携研究を実施したり、研究開発段階から企業と連携して実施する企業参画型研究や、企業が抱えている技術課題の早期開発に向けて実施する企業ニーズ即応型研究にも取り組んでいます。

技術ニュースでは、こうした取り組みを県内企業の皆様に提供することで、さらなる工業試験場の利活用を促進したいと思います。

工業試験場の重要な役割の一つに「相談指導」があります。職員の一人ひとりが、それぞれの専門性と経験や知見を生かしながら、年間約1万件の企業からのさまざまな技術相談に対応したり、企業に出向いて年間約1千件の技術指導を行ったりしています。

また、高度な試験・計測機器を整備し、新商品開発や品質管理、クレームの原因究明などに「依頼試験」で対応し、企業の方がご自分で操作、使用できる「開放設備」も加え、年間で約6千件のご利用をいただいています。

今年度からは、企画指導部の顧客サービス担当部門を強化し、工業試験場の役割を広く県民各層にお知らせするとともに、商工会などとの連携強化を図りながら、きめ細かな技術支援に努め、業界の皆様から信頼され、愛される存在となれるよう日々努力いたしますので、皆様方より一層のご利用を期待して、新任のご挨拶とさせていただきます。